

文献

- 安藤 泰至, 高橋 都 (編). (2012). シリーズ生命倫理学第 4 巻 終末期医療. 丸善出版.
- 新幡 智子. (2007). 第 5 章 全人的ケアの実践. 恒藤 暁, 田村 恵子 (編). 系統看護学講座別巻緩和ケア (第 3 版) (pp.80-96). 医学書院.
- Asai A, Okita T, Bito S. (2022). Discussions on Present Japanese Psychocultural-Social Tendencies as Obstacles to Clinical Shared Decision-Making in Japan. *Asian bioethics review*, 14(2), 133-150. <https://doi.org/10.1007/s41649-021-00201-2>
- 浅野 志保. (2018). 緩和ケア病棟の看護師の終末期がん患者の自律した排泄行動に対する葛藤と解決策. 北日本看護学会誌, 21(1), 37-45.
- Batch M, Windsor C. (2015). Nursing casualization and communication: a critical ethnography. *Journal of Advanced Nursing*, 71(4), 870-880. <https://doi.org/10.1111/jan.12557>
- Beauchamp TL, Childress JF. (2001/2009). 立木 教夫, 足立 智孝訳 (訳). 生命医学倫理 (第 5 版) (pp.139-274). 千葉: 麗澤大学出版会.
- Bégar I, Ikeda N, Amemiya T, Konishi E, Iwasaki A, Severinsson E. (2004). Comparative study of perceptions of work environment and moral sensitivity among Japanese and Norwegian nurses. *Nursing and Health Sciences*, 6(3), 193-200. <https://doi.org/10.1111/j.1442-2018.2004.00192.x>
- Chambliss DF. (1996/2002). 浅野 祐子 (訳). ケアの向こう側: 看護師が直面する道徳的・倫理的矛盾. 日本看護協会出版会.
- Dierckx de Casterlé B, Izumi S, Godfrey NS, Denhaerynck K. (2008). Nurses' responses to ethical dilemmas in nursing practice: meta-analysis. *Journal of Advanced Nursing*, 63(6), 540-549. <https://doi.org/10.1111/j.1365-2648.2008.04702.x>
- Eagle LM, de Vries K. (2005). Exploration of the decision-making process for inpatient hospice admissions. *Journal of advanced nursing*, 52(6), 584-591. <http://10.1111/j.1365-2648.2005.03630.x>
- 江口 瞳, 秋元 典子. (2013). 緩和ケア病棟入院中で余命 3 週間と予測されている終末期がん患者の 1 日の過ごし方に対する意思決定の内容. 日本がん看護学会誌, 27(1), 4-12. <https://doi.org/10.18906/jjscn.2013-27-1-4>
- Engel J, Prentice D. (2013). The ethics of interprofessional collaboration. *Nursing Ethics*, 20(4), 426-435. <https://doi.org/10.1177%2F0969733012468466>
- 藤井 博之. (2018). 地域医療に取り組む 2 つの医療機関における多職種連携の視点と方法に

- 関する実証的研究[博士論文]. <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11193734>
- Fry ST, Johnstone MJ. (2008/2010). 片田 範子, 山本 あい子(訳). 看護実践の倫理(第3版): 倫理的意思決定のためのガイド(pp.269-270). 日本看護協会出版会.
- Gargen K. (2009/2020). 鮫島 輝美, 東村 知子(訳). 関係からはじまる: 社会構成主義がひらく人間観. ナカニシヤ出版.
- 稲垣 久美子, 古澤 亜矢子, 村瀬 智子. (2016). 一般病棟での臨床経験を有する看護師が緩和ケア病棟に配属されて2年未満に経験する心理的負担と対処. 日本看護科学会誌, 36, 41-50. <https://doi.org/10.5630/jans.36.41>
- International Council of Nurses. (2021). ICN 看護師の倫理綱領(2021年版)[ウェブサイト]. <https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/ethics/index.html> (検索日: 2023年1月25日)
- 伊藤 千晴, 太田 勝正. (2008). 新人看護師が直面する倫理上のジレンマと看護倫理教育のニーズ: A病院における事例を通じて. 日本看護教育学会誌, 18(2), 41-49. [https://doi.org/10.51035/jane.18.2\\_41](https://doi.org/10.51035/jane.18.2_41)
- 和泉 成子. (2007). ターミナルケアにおける看護師の倫理的関心: 解釈学的現象学アプローチを用いた探求. 日本看護科学会誌, 27(4), 72-80. [https://doi.org/10.5630/jans.27.4\\_72](https://doi.org/10.5630/jans.27.4_72)
- 神 信人. (2009). 集合的無知. 日本社会心理学会(編). 社会心理学事典(pp.300-301). 丸善出版.
- 上山 千恵子. (2007). 終末期ケアに携わる看護師が捉える「よい最期」. 日本看護科学会誌, 27(3), 75-83. [https://doi.org/10.5630/jans.27.3\\_75](https://doi.org/10.5630/jans.27.3_75)
- 角甲 純, 小林 成光, 關本 翌子. (2017). がん専門病院の緩和ケア病棟における死亡退院患者を対象としたデスカンファレンス開催の要否に対する関連要因の検討, *Palliative Care Research*, 12(4), 929-935. <https://doi.org/10.2512/jspm.12.929>
- 角甲 純, 大園 康文, 小林 成光, 關本 翌子. (2018). がん専門病院の緩和ケア病棟で行われているデスカンファレンスの内容分析. *Palliative care research*, 13(1), 115-120. <https://doi.org/10.2512/jspm.13.115>
- 甲原 定房. (2014). 誤った集団規範への非同調行動に集団内の人間関係と行動の対象者が及ぼす効果. 山口県立大学学術情報, 7, 75-80.
- 桂川 純子, 横尾 京子, 中込 さと子. (2008). わが国の新生児医療における治療拒否: 概念分析. 日本新生児看護学会誌, 14(1), 16-24.

- 川島 みどり, 杉野 元子. (2008). 看護カンファレンス (第3版). 医学書院.
- 木村 恵美子, 城丸 瑞恵, 仲野 みぎわ. (2020). 終末期がん患者の安全性と安楽性を考慮した日常生活援助に対する熟練看護師の思考. 日本看護技術学会誌, 19, 104-112.  
[https://doi.org/10.18892/jsnas.19.0\\_104](https://doi.org/10.18892/jsnas.19.0_104)
- 厚生労働省, 日本医師会. (2010). がん緩和ケアに関するマニュアル (第3版). 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団.
- 小宮 あすか, 楠見 孝, 渡部 幹. (2007). 個人-集団意思決定における後悔. 心理学研究, 78(2), 165-172. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.78.165>
- Krippendorff Klaus. (1980/1992). 三上 俊治, 椎野 信雄, 橋元 良明 (訳). メッセージ分析の技法「内容分析」への招待. 勁草書房.
- 丸一 美穂, 鎌田 亜希子, 畑中 えり子, 毛利 明子. (2020). 緩和ケア病棟におけるがん患者の褥瘡予防ケアに対する看護師の思い: 終末期患者 2 事例に焦点を当てて. 盛岡赤十字病院紀要, 29(1), 38-44.
- 升川 研人. (2020). 遺族によるケアの質評価. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究 4. 日本ホスピス緩和ケア研究振興財団. 16-26.
- 松木 光子. (1992). 第III章 これからの看護方式の概念と方法. 松木 光子 (編). クオリティケアのための看護方式: プライマリナーシングとモジュール型継続受持方式を中心に (改訂2版) (pp.19-34). 南江堂.
- 松山 明子, 樋口 京子. (2011). 緩和ケアにおけるエキスパートナースの倫理的意思決定過程に関する研究. 日本看護倫理学会誌, 3(1), 19-27. <https://doi.org/10.11477/mf.7001100043>
- 宮下 光令. (2013). 1 章 緩和ケア概論. 宮下 光令 (編). ナーシング・グラフィカ成人看護学 6 緩和ケア (第3版) (pp.22-23). メディカ出版.
- 水井 翠他. (2017). 緩和ケア病棟の看護師にとっての退院支援の意味. 日本看護科学会誌, 37, 170-178. <https://doi.org/10.5630/jans.37.170>
- 水澤 久恵. (2009). 病棟看護師が経験する倫理的問題の特徴と経験や対処の実態及びそれらに関連する要因. 生命倫理, 19(1), 87-97. [https://doi.org/10.20593/jabedit.16.1\\_58](https://doi.org/10.20593/jabedit.16.1_58)
- Moore AR, Bastian RG, Apenteng BA. (2016). Communication Within Hospice Interdisciplinary Teams: A Narrative Review. *American Journal of Hospice & Palliative Medicine*, 33(10), 996-1012. <https://doi.org/10.1177/1049909115613315>
- 中田 亜希子, 和田 千穂子, 木村 安貴, 田代 志門. (2018). がん医療における倫理的問題の特

徴を考える: 国内の臨床倫理ケースブックの分析から. 生命倫理, 28(1), 31-39.

[https://doi.org/10.20593/jabedit.28.1\\_31](https://doi.org/10.20593/jabedit.28.1_31)

日本ホスピス緩和ケア協会. (2018). WHO (世界保健機関) の緩和ケアの定義 (2002 年) [ウェブサイト]. <https://www.hpcj.org/what/definition.html> (検索日: 2023 年 1 月 25 日)

日本ホスピス緩和ケア協会. (2021). 緩和ケア病棟の基準 [ウェブサイト].

<https://www.hpcj.org/what/kijyun.html> (検索日: 2023 年 1 月 25 日)

日本看護協会. (2021). 看護職の倫理綱領. 日本看護協会出版会.

日本緩和医療学会ガイドライン統括委員会 (編). (2010). 2 章 痛みの包括的評価. がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020 年版 (第 3 版) (pp.34-38). 金原出版株式会社.

萩野 雅. (2012). 精神科医療看護における倫理の動向. 武蔵野大学看護学部紀要, 6, 37-46.

<http://id.nii.ac.jp/1419/00000909/>

尾関 美喜. (2021). 集団内における地位と特権意識が集団規範の継承に及ぼす影響. 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要, 52, 1-9. <http://doi.org/10.18926/63107>

Sandsdalen T, Hov R, Høye S, Rystedt I, Wilde-Larsson B. (2015). Patients' preferences in palliative care: A systematic mixed studies review. *Palliative Medicine*. 29(5), 399-419.

<https://doi.org/10.1177/0269216314557882>

佐藤 香奈, 本田 芳香, 小原 泉. (2016). 終末期の若年性がん患者に対する緩和ケア病棟看護師のケアリング. 日本がん看護学会誌, 30(3), 40-46. <https://doi.org/10.18906/jjscn.sous2>

佐藤 晋爾, 寫末 憲子, 大部 令絵, 萱場 一則. (2018). IPW/IPE における葛藤の要因に関する日本語文献レビュー. 保健医療福祉連携, 11(1), 14-21.

[https://doi.org/10.32217/jaipe.11.1\\_14](https://doi.org/10.32217/jaipe.11.1_14)

篠田 道子. (2015). チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方 (第 2 版). 日本看護協会出版会.

Smith Joanne, Haslam Alexander. (2012/2017). 樋口 匡貴, 藤島 喜嗣 (訳). 社会心理学・再入門: ブレークスルーを生んだ 12 の研究. 新曜社.

白樫 三四郎. (2008). 社会的影響. マイケル W アイゼンク/山内 光哉 (監修), アイゼンク教授の心理学ハンドブック. (pp.794-795). ナカニシヤ出版.

鈴木 真理子. (2010). 緩和ケアにおける看護師の役割と多職種との協働 [修士論文].

<http://hdl.handle.net/10631/862>

田口 めぐみ, 宮坂 道夫. (2015). 看護師がチームワークの中で経験する違和感・ジレンマに

についてのナラティブ分析. 日本看護倫理学会誌, 7(1),45-53.

[https://doi.org/10.32275/jjne.7.1\\_45](https://doi.org/10.32275/jjne.7.1_45)

田口 めぐみ, 宮坂 道夫. (2019). 看護師が自己規範とチーム規範との不一致によって経験するジレンマについてのナラティブ分析. 日本看護科学会誌, 39,350-358.

<https://doi.org/10.5630/jans.39.350>

高岡 健. (2022). 同調圧力：沈黙の螺旋理論. 精神科治療学, 37(4), 423-426.

谷向 仁. (2019). 第II章 がん医療におけるせん妄. 日本サイコオンコロジー学会, 日本がんサポーターズケア学会編. がん患者におけるせん妄ガイドライン (p10) . 金原出版.

Thomas Grisso, Paul Sa.Applebaum. (1998/2000). 北村 總子, 北村 俊則 (訳). 治療に同意する能力を測定する：医療・看護・介護・福祉のためのガイドライン. 日本評論社.

Thompson JE, Thompson HO. (1992/2004). ケイコ・イマイ・キシ, 竹内 博明 (監訳) . 看護倫理のための意思決定 10 のステップ. 日本看護協会出版会.

鶴若 麻理, 長瀬 雅子. (2020). 看護師の倫理調整力：専門看護師の実践に学ぶ. 日本看護協会出版会.

内田 隆三. (2002). 規範. 永井 均, 小林 康夫, 大澤 真幸, 山本 ひろ子, 中島 隆博, 中島 義道, 河本 英夫(編), 事典哲学の木 (p.239). 講談社.

Vandecasteele T, Van Hecke A, Duprez V, Beeckman D, Debyser B, Grypdonck M, Verhaeghe S. (2017). The influence of team members on nurses' perceptions of transgressive behavior in care Relationships: A qualitative study, *Journal of Advanced Nursing*, 73(10), 2373–2384.

<https://doi.org/10.1111/jan.13315>

Washington KT, Oliver DP, Gage LA, Albright DL, Demiris G. (2016). A multimethod analysis of shared decision-making in hospice interdisciplinary team meetings including family caregivers. *Palliative Medicine*, 30(3), 270-278. <https://doi.org/10.1177/0269216315601545>

Wall S, Austin W. (2008). The influence of teams, supervisors and organizations on healthcare practitioners' abilities to practise ethically. *Nursing leadership (Toronto, Ont.)*, 21(4), 85-99.

<https://doi.org/10.12927/cjnl.2008.20290>

山口 裕幸. (2014). 社会集団. 海保 博之, 楠見 孝(監修). 心理学総合事典(新装版) (pp.429-439). 朝倉書店.

山口 裕幸. (2020). チームワークの光と影. 心理学評論, 63(4), 438-452.

[https://doi.org/10.24602/sjpr.63.4\\_438](https://doi.org/10.24602/sjpr.63.4_438)

山口 裕幸, 釘原 直樹. (2009). 集団凝集性と集団発達. 日本社会心理学会 (編). 社会心理学事典 (p.338). 丸善株式会社.

吉田 俊和, 村田 光三. (2009). 社会規範. 日本社会心理学会 (編). 社会心理学事典 (p.230). 丸善株式会社.